

<第2議案>

2021年度収支決算(案)

8～9ページの2021年度損益計算書(自2021年1月1日至2021年12月31日)と貸借対照表(2021年12月31日現在)をもって、2021年度収支決算とする。損益計算書は、「一般会計」と2018年に設立した「次世代基金」に区分して示してある。

I 損益計算書

2021年度決算のポイントは以下の通りである。

1 収益の部

1.1 会費収入について

会費収入は対予算比約48万円の減収であり、予算執行率は90%である。割引会員の納入状況が低くなっている。

1.2 事業収入・支出について

『ピース・アルманаック2021』発行の結果、書籍販売収入は約131万円である。書籍の「その他」約66,000円は監視報告集の販売収入である。

コロナの影響もあったが、「講演・執筆」は予算比2万円減で、「情報サービス・調査受託」は予算比6万円減である。

1.3 寄付金収入、助成金収入について

寄付金収入は、予算比で28万円減となった。コロナ禍に伴うNPT再検討会議の再々延期により海外派遣がなくなり、海外派遣カンパをしなかったことが主な要因である。

助成金では、アユス仏教国際協力ネットワークの「NGO組織強化支援事業」として1月から12月までで約128万円の支援金を受けることができた。「よこはま夢ファンド」は、2021年分として2,903,000円の寄付を受けた。

1.4 当年度収益合計

当年度収益合計は、予算比で会費収入48万円減、事業収入62万円減などにより予算比で約133万円減となった。

2 費用の部

2.1 事業費の支出全体としては予算比19万円増となった。これは、スタッフ給与を2名分、すべて一般会計から支出することに切り替えたことやスタッフ交通費増によるものである。

2.2 管理費支出は、ウェブ整備委託費の約27万円などにより全体として約67万円増である。その結果、当年度支出合計は、予算比92万円増となった。

2.3 スタッフ2名分の給与等は、給与手当570万円、法定福利費97万円、交通費52万円、合計719万円となる。給与以外の支出増が大きい。

3 全体収支

2021年度の単年度収支は約172万円の赤字となり、通常会計の次期繰り越し金は約187万円となる。

2018年に創設し1500万円でスタートした次世代基金は、2021年は情報管理の臨時雇用48万円、及び脱軍備・基礎講座謝礼21万円などとして計74万円を支出した。基礎講座の受講料収入は約92,000円であった。その結果、約1,106万円が次期繰り越し金となる。

Ⅱ 貸借対照表

以上の損益計算書を反映させた結果、2021年12月31日現在の正味財産は、通常会計で187万円、次世代基金が1,106万円、合計約1,293万円となる。